

都市再生整備計画(第4回変更)

ゆだおんせんしゅうへん
湯田温泉周辺地区

やまぐちけん やまぐちし
山口県 山口市

平成26年11月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山口県	市町村名	山口市	地区名	湯田温泉周辺地区	面積	85 ha
計画期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度	交付期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度				

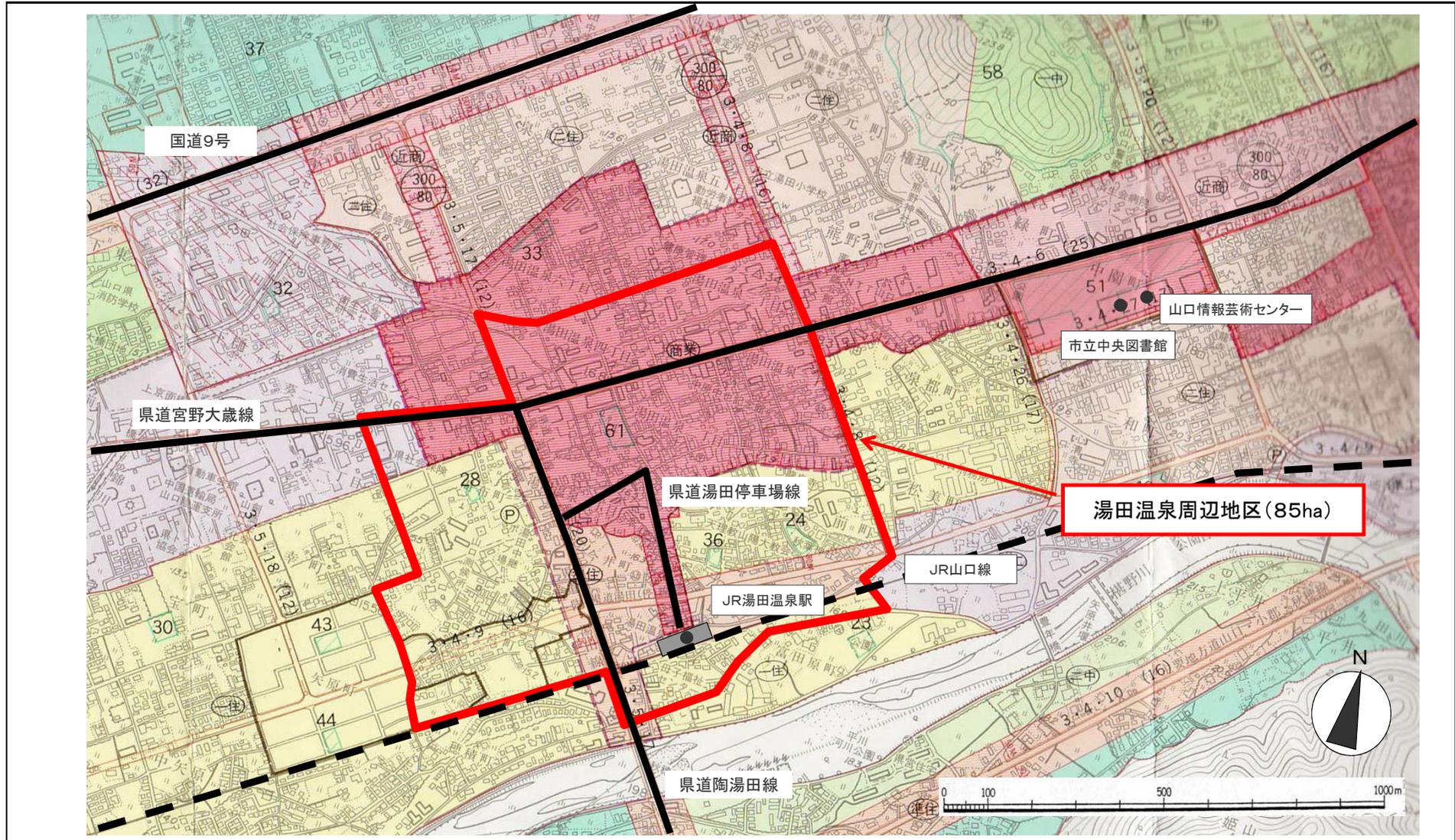
目標 大目標 訪れる人、住む人によさしく心地よい市街地の再生 目標① 温泉風情を高める路地の再生をすることにより、観光客の憩いと回遊性を高めます 目標② 道路等の整備を行い、安全・快適に移動できる環境を整えます							
目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 ・湯田温泉のはじまりは室町時代にまでさかのぼり、権現山の麓にあるお寺の池に小さな白狐が傷ついた足を每晚つけにきたのを和尚さんが不思議に思い、池の水をすくったところ温泉だったという言い伝えがあり、難病がなおる白狐の湯として人々に親しまれ発展してきました。 ・現在、湯田温泉は、山陽路随一の湯量を誇る山口県下最大の宿泊地であり、山口県の玄関口である新山口駅や山口宇部空港から近いことから、県内外からの観光やビジネスをするための宿泊先として多くの方に利用されています。 ・しかし、湯田温泉を訪れる観光客数は平成3年の104万人をピークに減少が見られ、近年は80万人前後で推移しており、宿泊客数も平成3年の91万人をピークに近年は60万人弱で推移しています。近年の景気の低迷や団体旅行から個人旅行への旅行手段の変化、旅行者のニーズの多様化により厳しい状況が続いています。 ・これまで、湯田温泉で快適に滞在していただけるように、温泉街の各所に足湯や飲泉場を設置しウォーキングマップを作成するなど、まち歩きを促進する取り組みなどを行っていますが、湯田温泉全体での温泉情緒に欠けており、一体的な修景の整備が求められています。 ・湯田温泉地区は、都市型の温泉地であることから宿泊地であるとともに、市内でも有効の商業地であり、住宅地でもあります。住宅地では緊急車両の入れない道路もあることから、生活道路の整備も必要となっています。 ・平成16年に地元の関係者である旅館組合や自治会、商工会などで組織する「湯田温泉まちづくり協議会」を設立され、湯田温泉のまちづくりに取り組むとともに、今後の湯田温泉のあり方等について協議を重ね、平成21年6月には「湯田温泉街整備構想」をまとめられました。この構想の内容を反映し、都市再生整備計画を作成しました。 ・周辺の市街地においては、高齢化と新市街地の市街化が進み、幹線道路が整備されていないために、生活道路が通り抜け道路として利用されるなど、道路環境の悪化が進み、区域内生活者の安全性等が問題となっており、道路などを中心とした都市基盤施設の早期改善が求められています。 ・湯田温泉の玄関口である湯田温泉駅は、山口大学や専門学校の通学や企業の通勤で利用される方も多く、1日2,000人以上の方が利用されています。しかし、駅前の道路は狭く、放置自転車があるなど温泉街の観光客を迎える玄関口として魅力向上が課題となっています。							
課題 ・湯田温泉は、県道204号線(旧国道9号)沿いに温泉街が形成された街なかにある都市型の温泉地であるがゆえに温泉情緒にかけており、他の温泉地との差別化を図り、湯田温泉らしい魅力づくりが求められています。 ・湯田温泉駅は、自転車での利用者が多いものの駐輪場が手狭であり、放置自転車規制区域にまであふれることもあり、道路幅員の狭い駅周辺の交通の支障となっているだけでなく、景観を乱しています。 ・周辺の市街地においては、幹線道路が未整備なため生活道路の通り抜けや、狭隘な生活道路もあり緊急車両の往来が困難なため、幹線街路とこれらと接道する生活道路の整備が求められています。							
将来ビジョン(中長期) 山口市総合計画において、「ひと、まち、歴史と自然が輝く 交流と創造のまち 山口」を目指す10年後の姿とし、そのなかで「交流と創造のまち」の実現に向けてより効果的にまちづくりを進めるために重点的かつ先導的に取り組む事業として位置づけており、県中央核都市の観光交流の拠点として湯田温泉の魅力創出を目指します。							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		従前値	目標値	目標年度
				基準年度			
足湯の利用者数	人/月	足湯の利用者数	路地の再生や道路整備を行うことにより、まち歩きを促進させる。湯田温泉には5箇所足湯があり、来街者の回遊スポットであることから回遊性を図る指標とする。	2250	平成21年度	2700	平成26年度
放置自転車の数	台/日	湯田温泉駅放置自転車規制区域にある放置自転車の数	湯田温泉駅は、湯田温泉の玄関口となっており、居住者と来街者の双方に魅力ある市街地再生を目標としている。通勤通学での利用者は、駅から目的地までの移動手段に自転車の利用が多く、周辺道路の放置自転車が交通の支障となり、また景観も乱している。放置自転車の数を駅周辺交通の安全性を図る指標とする。	300	平成21年度	0	平成26年度
接道不良敷地率	%	幅員4m未満の道路に接する敷地の割合	周辺の市街地において、道路整備を行うことにより、安全快適に移動できる環境を整備する。接道不良敷地率を交通の安全性を図る指標とする。道路事業の整備エリアにおいて、接道していない敷地の割合を数値とする。	27	平成21年度	0	平成26年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・整備方針1（風情ある路地の再生） ・観光客がそぞろ歩きをしたくなるような湯田温泉らしい路地整備をします。温泉街としての風情があり、心地よさを感じることができるように各通りの美装化などを一体的に整備することにより、湯田温泉全体で観光客をおもてなしする空間を演出します。 	高質空間形成施設(基幹事業／美装化)、地域生活基盤施設(基幹事業/情報板)、地域創造支援事業(提案事業／足湯)
<ul style="list-style-type: none"> ・整備方針2(憩いの場の整備) ・気軽に湯田温泉を感じることができ休憩することができるよう足湯を整備します。湯田温泉駅に停車するSL山口号を見ることができる場所に足湯を整備し、より湯田温泉を感じることができるように演出します。 ・井上公園は、公園内に足湯を整備し、憩いの場として利用されているものの、夜間は公園内部が暗い場所もあることから、ライトアップすることにより、魅力が増すことはもちろんのこと、防犯上も観光客にとって安心して利用していただけるように整備します。 	高質空間形成施設(基幹事業／美装化、ライトアップ)、地域創造支援事業(提案事業／足湯、ライトアップ施設:電源施設)
<ul style="list-style-type: none"> ・整備方針3(道路・交通環境の整備) ・交通の支障となっている駅前の駐輪場を整備するとともに、接道の不良な敷地を解消するなど、道路・交通環境を整えます。湯田温泉駅にある、駐輪場やトイレなどの配置を変更し再整備することにより、駅前の道路を拡幅し、バスの進入ができるようにするなど、より快適に駅及び周辺を利用できるように整備します。 ・また、狭隘な道路を解消することにより、歩行者などの安全性を確保し、交通アクセスの向上を図ります。 	道路事業(基幹事業／若宮町今井町線、若宮町2号線外線、富田原町前町線)、高質空間形成施設(基幹事業／美装化、公衆トイレ)、地域生活基盤施設(基幹事業/自転車駐車場)、地域創造支援事業(提案事業／足湯整備・若宮地内排水路改良)
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動 当地区の旅館組合や温泉配給組合、商工会関係者や自治会などで組織されている「湯田温泉まちづくり協議会」と市において計画策定段階から協働して取り組んでおり、事業終了後も継続的に協議し、まちづくりに取り組む予定である。</p>	

都市再生整備計画の区域

湯田温泉周辺地区(山口県山口市)	面積 85 ha	区域 湯田温泉一丁目～四丁目、前町、下市町、今井町、若宮町の全部と富田原町、周布町、葵一丁目の一部
------------------	-------------	--



湯田温泉周辺地区(山口県山口市) 整備方針概要図

目標	大目標 訪れる人、住む人にやさしく心地よい市街地の再生	代表的な指標	足湯利用者数 (人/月)	2,250 (21年度)	→	2,700 (26年度)
	目標① 温泉情緒を高める路地の再生をすることにより、観光客の憩いと回遊性を高めます		放置自転車数 (台/日)	300 (21年度)	→	0 (26年度)
	目標② 道路等の整備を行い、安全、快適に移動できる環境を整えます		接道不良敷地率 (%)	27 (21年度)	→	0 (26年度)

